

令和7年度 自己評価報告書

令和8年 3月31日

学校法人聖尚学園 幼保連携型認定こども園 ホップこども園

1. 本園の教育目標

- ◎神の愛のもとで心身ともに健やかに育つ子 「あかるくげんきなこ」
- ◎心に感じて表現できる感性を持つ子 「こころをすなおにひょうげんするこ」
- ◎頑張る心と生きる力を持つ子 「すすんでがんばるこ」

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「あそび」から育つ「こころ」と「からだ」⇒どの遊びも「遊びこみ」を保障される環境と援助 園児も職員も楽しい、面白いこども園

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	① 安心 安全 健やかな環境
<p>取り組み状況</p> <p>評価 (A)</p>	<p><0歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆それぞれの生活リズムに合わせ、職員間で話しながら一人ひとりが満たされるように対応した。例) 連絡帳を見て早起きだった場合、午前寝をする、朝ごはんが進まなかった→早めにおやつ など ◆安心感や温かみのある環境を目指し、遊具や棚の配置など試行錯誤した。マットを全面に敷くことでのびのびとハイハイや歩行ができた。 ◆育児担当制により、より一層一人ひとりに向き合う時間が増え、体調不良の前兆がわかり、家庭とも情報共有しながらすぐに対応できた。 <p><1歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆玩具や環境の安全配慮を細かく行った。消毒等の衛生面の配慮も継続した。 ◆感染症流行の兆し時は体調の細かな変化に気づけるようにこまめな検温を行った。小さな気持ちの変化へも寄りそう関わりをした。ミーティングで情報共有することで安心感を持てた。 <p><2歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆からだの動きが活発になり、新しいものに積極的になった。言葉のやり取りを楽しむ姿が多く見られた。子ども同士で言葉よりも先に手が出てしまう場面もあり、混雑やトラブルを事前に防ぐことを意識した。子どもの様子や動きを職員間で共有して全体を把握した。トイトレと並行して保育室内の職員配置に気がついた。手洗いなどの習慣を進んでできるようにわかりやすい言葉で伝えながら促した。 ◆こまめな水分補給・清拭・換気をして感染症対策をした。 ◆子どもの少しの変化や気づきを伝え合ったり、思いを安心して表すことができる環境を整えていく。自己肯定感が育っていくように、子どもの視点に立ち、子どもの判断や思いを認める言葉をかけていく。 <p><3歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆職員間で打ち合わせ、活動の事前に必要な環境構成を共有し準備することができた。 ◆複数担任を活かし、移動の声掛けの連携、待ち時間などのトラブル防止ができた。ホールでは職員の見守り位置を工夫し、目がとどき、安全に遊べるように配慮した。 ◆机のアルコール/電解水での清拭、棚、椅子、マット等の清掃をこまめに行い、清潔を保った。 ◆怪我や体調変化、トラブルなどは細かなことも職員間で共有した。

<4歳児>

- ◆事故防止マニュアルの確認→危険な場面では理由を添えて伝えることで子どもたちも職員の声掛けを意識しながら行動しようとしていた。
- ◆写真撮影に手がとられてしまう瞬間があったので、職員間で声をかけあい、子どもにカメラ（タブレット）を向けすぎないようにした。
- ◆工作あそびを進んで行える環境を整えた。廃材=いくらでもつかっていいものではなく、限りある大切な資源であることを伝えた。
- ◆子どもたちの「こういう風につくりたい」を尊重しながらも、無駄遣いの少ない、安全に工作できる環境設定をした。

<5歳児>

- ◆森棟への移動は、全員揃うまで待つのではなく、準備ができた子から移動できるように環境を工夫することができた。個人に合わせた準備、待ち時間を削ることができ、森棟着後もスムーズに活動できた。移動の際は職員が要所に立ち、安全確保をしながら移動できた。
- ◆活動の合間や放課後などに職員間で子どもやクラスの様子、活動の反省などの意見交換を行い、連携を取り合うことができた。

<給食>

- ◆子どもたちが安心・安全に楽しく食べられるように、切り方や調理方法に工夫をした給食づくりを心掛けた
- ◆給食中に食事のマナーや食材についての話をし、子どもたちとコミュニケーションを取った。

<看護保健>

- ◆環境づくり：救急箱（バッグ）や各部屋の救急セット・衛生備品の補充（定期的に点検）。ポシエットの活用（すぐに対応できるように）っ保冷剤の準備、トイレトレーニングセットの準備
- ◆昨年に引き続き、各学年でポシエットを活用してばんそうこうやムヒ、ワセリンなどがすぐに使えてよかった。こまめに補充などした。
- ◆インフル、溶連菌など感染症の流行は見られたが学年をまたいで大流行は見られなかった。アプリを活用して病気のこと、流行の兆しなど発信したことも予防効果につながった
- ◆連携：処置や病児の経緯化をアプリに入力→担任と共有→保護者に伝える…→現在は連絡票を活用。アップデートしていく
怪我や困った時には職員同士で声を掛け合って、対応できていた。
- ◆怪我、病児対応の連絡がスムーズにできた。今後も丁寧にやっていきたい。

<リトミック>

- ◆動きを伴うリトミックの活動において、担任とも連携し、周囲の安全に配慮しながら行った。
- ◆座っての活動や移動をしない活動も取り入れる工夫をした。

<英語>

- ◆活動に伴い、子どものどんな動きが予想されるか年齢ごとに想定し、楽しくアクティブかつ安全に遊べた。日頃から非常時・災害時を想定して子どもを守れるか意識した。

<全体>

- ◆常に安全に配慮した。子どものチャレンジする機会が奪われることがないように今後も心掛けたい。職員配置と職員も一緒に遊ぶことを大切にしたい。
- ◆各チームがリーダーを中心に相談しながら保育を行っていた。特に未満児では密な打ち合わせが若手の職員の安心につながった

評価項目	② 一人ひとりの思いを大切に、人権を尊重した保育
<p>取り組み状況</p> <p>評価 (A)</p>	<p><0歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの「できた」を共有する想いで、気持ちを言葉にして伝えることで、笑顔やうなずきが返ってきて、気持ちが通じ合う体験をもてた ◆新しいお友達、自分より小さいお友達の存在を感じ取り、優しくなれたり、おもちゃを渡したりと今まで保育者がしてきたことを経験として相手に返しているような優しさの育ちが見られた。 ◆オムツ交換台があることで、興味が出てきた子にはズボンの着脱など一対一でゆっくりと関わることができていた。 <p><1歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一人ひとりの気持ちに寄り添い、大切にされていると感じられる関わりを意識した。言葉や表情、行動を受け止めることで安心して自分の思いを表現できる姿が見られた ◆グループ担当制保育を通じてさらに職員やお友達と深く関わる時間が増え、安心して過ごすことにつながった。 <p><2歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自己主張がはっきりとできるようになり、言葉や感情を受け止めた。グループ担当保育となり、一人ひとりとより丁寧に向き合えるようになった。子どもの「やりたい」気持ちを大切に満たされるように受け止めた。 ◆「見てるよ」「ここにいるよ」と声をかけ、「できたね」などと伝え、自信につながるようにした。 ◆個々に応じたスキンシップを大切にすることで、愛着形成ができていると感じた。 ◆友達とのかかわりが増え、一人ひとりの思いを大切に援助することを心掛けた。 <p><3歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆進級当初は初めて関わる職員も多く、一人ひとりと密に関わり、コミュニケーションを多くとるように意識した。できたことやがんばっていることを一緒に喜ぶなかで、肯定的な言葉がけをし、子どものやる気や自信につなげていけるようにした。 ◆「ぼかぼかことばとシクシクことば」マイナスな気持ち・受け取り方になるような言葉は使わず、言い換えて伝えるようにした。友達同士で不適切な言葉を面白く言うてしまう場面では、いけないことはしっかり伝えていった。 ◆子ども同士の関わりでトラブルもあるが、保育者が双方の話を聞き、代弁することで、相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを言ったりする機会を持ち、大切さを学んでいった ◆子ども同士の関わりで「ありがとう」「ごめんね」「いれて」など大事な思いやりの言葉を伝えることを大切にした。 <p><4歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自分の気持ちを言葉で伝えるのが上手になっているが、言葉の受け取り方、「そんなつもりでいったんじゃないのに…」とトラブルになることも。一つひとつの出来事を丁寧に、みんなのなかの自分が大切な存在であること、その中でもみんないろいろな気持ちをもっていること、などを個人にも全体にも伝えた。 <p><5歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「今日は何したい?」「何して遊ぼう?」と子どもたちに問いかけ、保育者が一日の流れや活動を全て決めるのではなく、子どもたちの意見を取り入れながらこども主体の保育を行うことができた。

	<p><リトミック> ◆一人ひとりの環境を意識し、担任と相談しながら対応をした ◆一人ひとりの表現を大切にし、学年によっては全体に共有するよう意識して活動した。</p> <p><英語> ◆子どもらしい好奇心や意欲を大切にしたい。子どもが自分の興味関心をベースに行動することを奨励しつつ、適切なお友達や先生との接し方、玩具や物の使い方があることを伝えていきたい。</p> <p><全体> ◆未満児さんの育児担当制が始まり、一人ひとりの子どもに理解が深まり寄り添えた。今後も深めていきたい。 ◆一人ひとりに愛情を持った保育ができていた。その中で全てに保育者が関わるのではなく、子どもに任せる場面、見守る場面など特に大きい子では保育者がやりすぎない保育も必要ではないか。</p>
<p>評価項目</p>	<p>③ あそびの充実「遊びこむ」ことの保障</p>
<p>取り組み状況</p> <p>評価 (A)</p>	<p><0歳児> ◆子どもたちはボールが大好きだったのでボールツリーを設定した。いつでも遊べる環境にしていたことで、ボール以外も貼ってみようという発想が出てきた。常に用意がしてある環境が遊びこみや遊びの発展につながった。</p> <p><1歳児> ◆未満児室3部屋を「運動」「指先(じゅくり)」「先生と遊ぼう(おもちゃ)」とコーナー分けして設定し、自ら遊びを選択し楽しむ姿が見られた。子どもの育ちに合わせて経験してほしいことを週案として計画した。 ◆グループ担当保育により、少人数でその子がやりたい遊びを実現することができ、一人ひとりが十分な玩具(環境)で遊びこむことができた。異年齢での関わりも増え、新しい遊びや年齢が上の子に興味を持つことへつながった。</p> <p><2歳児> ◆子どものやりたい!楽しい!の様子を見て、職員間で声を掛け合い、一日の中で実現、遊び込めるようにした。 ◆遊びのコーナーが同じものばかりにならないように変えたり広げたり設置した。好きな遊びをみつけられるように自分で取り出して戻せるような設定をした。 ◆保育者も一緒に遊び、共感や気持ちの代弁しながら遊びが発展してくるようにした。 ◆集中して遊ぶ姿があった時は時間を延長して楽しめるようにした。 ◆集団遊び、ルールのある遊びも楽しめている。</p> <p><3歳児> ◆遊びを自分で選ぶ機会が増え、「次はこれで遊びたい」「このブロックでこれを作りたい」と創造力が高まった。遊びこみ→発見→他児に教える…という新しい姿 ◆集団遊びを多く行えるようにした。ルールや役割を段階的に発展させることで理解につながり、子どもたち同士での遊びに繋がった ◆週のカリキュラムがびっしりになる時は、遊びを変更し、その日の子どもの様子やクラスの雰囲気に合わせて活動を決めた</p>

	<p><4歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちの様子や好きなことなどを職員間で共有、興味関心を引き出しながら遊び込める活動を行うことができた。様々な媒体から情報を取り入れてお遊びを構築した。 ◆好き・興味に応じた集中して遊び込める環境構成を心がけた。遊びの展開や友達同士の関わりを見守り、必要に応じて助言や提案をすることで、子どもたちが自分の力で遊び込めるようにした。 ◆工作材料のコーナーを見直すことで、子どもたちが自由に工作を楽しんでいたが、作って終わり、作って満足、でどんどん別の新しいものが増えていった。クリスマスマーケット、お弁当作り…などテーマがあるとつくりこんで遊べるので、作ったもので遊ぶ、遊びの盛り上がり引き際を見極めていきたい。 <p><5歳児></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆工作コーナーや森園庭の玩具を子どもたちが自由に使いやすいようにコーナー作りをすることができた。かごや棚に写真やシールを貼ったり画用紙を色ごとに分けたりと工夫しながらコーナーを作り、自由にのびのび遊びや活動を広めていくことができた。 ◆自由遊びの中にピアノを取り入れ、音楽に親しむことがたくさんできた。知っている曲を弾いてみたり、その曲を友達と教え合ったり、子ども同士で曲が完成したりという姿が見られた。 <p><英語></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆季節感や英語圏の文化が伝わる活動をしつつ、好きなものを介して英語に触れることが大切なので、これからも大好きなトピックを探していきたい。 <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆3歳以上児は登園後すぐに体をうごかして遊ぶ保育になり、朝の時間が充実した。ホールではBブロックラボができたり、ドリームログを出したままにしておけたことで遊びの継続に繋がった ◆保育室の使い方が変わり、遊べる空間が増え、未満児も様々な場所で遊ぶことができた。 ◆できるだけ待つ時間を減らし、遊びを増やす。遊ぶ前の説明を減らす。一斉ではないより自由度の高い保育。安全と最低限のルールが保てれば、保育者は見守りとサポートだけの日があってもよいのでは。
	<p><今後のアイデア・メモ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ミーティングタイムの発展…例①アトリエタイムや行事でしてみたいこと案を子どもたちに出してもらおう 例②アイデアを出しあう→実験→ミーティング→実験…→やったー！ ◆食育の充実…例①栄養士の先生による食育の時間の充実（月1程度か）例②今日の献立のおすすめレシピを玄関に張り出す。イラスト入り手書きもよいのでは。保護者の方が写真など取れるようにするのはどうか ◆引き続き、朝の異年齢で遊ぶ時間を持っていく。部屋の使い方や遊びの内容など年間で発展させていく（こども主体タイムを確保） ◆「ぐんぐん+（プラス）」リトミック、英語、読み聞かせ、自然科学、季節の話、剣道や習字、手芸など選択制（年長）

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった） 職員による評価会議 R8.1.29（理事長、園長、副園長、主任、学年リーダー、英語）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	評価項目: ①安心安全健やかな環境 ②一人ひとりの思いを大切に、人権を尊重した保育 ③遊びの充実「遊びこむ」ことの保障 園内自己評価:

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題 (仮)

	課題	具体的な取り組み方法
1	安心・安全 健やかな環境	命と心を守ることを最優先に、事故やけがを防ぐ安全な環境、心の安全・食・衛生面にも配慮した健やかな環境を整え、心身ともに健やかに育つ保育環境を構築していく。
2	人権尊重と愛着形成を基盤とした保育	子ども一人ひとりを大切に、特に低年齢児では担当制保育を通して安心できる関係性を育む。すべての子どもが自分らしく過ごせる保育を目指す。
3	異年齢交流/コーナー保育の充実と探究する心の育成	子どもが自分で選び、動き、考える遊びができるように、保育者は見守りながら環境と関係性(交流)を整える。成長とともに、遊びこみ、探究する経験が増えるように保育を組み立てていく。

6. 来年度重点的に取り組む目標・計画 (案)

あんしんのなかで じぶんらしく そだつ こども (職員も)

<保護者代表 天使の会役員の皆様から(保護者 名、園長、主任、学年リーダー)> (R8年2月10日)

- ・職員による自己評価や反省は、保護者代表だけでなく、全体に発信してほしい。みんなが聞きたいと思う。
- ・給食のおすすめレシピはインスタ発信もいいのでは。レシピ発信はぜひやってほしい。など
- ・保育者が試行錯誤したことが、日々の保育に活かされているのがありがたい。
- ・アプリ配信は読んだつもりでも頭に入らないことがあるから紙ベースもほしい時がある
- ・子どもが給食作りのお手伝いで玉ねぎの皮むきなどして、家でも上手にしてくれる。
- ・保育者が一人ひとりにより深く関わっていると感じた。
- ・手厚く保育してもらってありがたい。アプリは親も先生も楽になるからよい取り組み。
- ・子どもたちにとって、ずっと思い出に残るすばらしい園。より良くしようと変えてくれるのがわかる。
- ・怪我の報告は連絡票を使う必要はあるのか。
- ・子どもが楽しいのが伝わってくる。卒園した上の子が「もっと園行きたかったな」と言うくらい。
- ・アトリエタイムは家だとできないことが思い切りできてよいのもっと増やしてほしい。
- ・一人ひとりに寄り添ってきて、他の園の経験もあるが、比べてもすばらしい。
- ・重要事項は紙で連絡してもらえるとありがたい。
- ・アトリエタイムでの作品を自信たっぷりで見せてくれる。子どもの成長が楽しみ。

<地域の方代表 理事、評議員の皆様から> (R8年3月23日)

- 地域で子どもの姿が減り、近所づきあいや子どもと大人の関係が希薄になる中で、社会の変化や時代の流れを実感している。また、声をかけることにも不安を感じるようになってきている。
- 見附市は人口減が比較的少ないものの、子どもの比率は低く、働く世代が多いため、放課後学童クラブの需要が高まっている。保育施設の多機能化を進め、施設数を維持しながら、今後も人口減対策に継続して取り組む必要がある。
- 園が育児やしつけまで丁寧に担い、迎え時の対応や緊急時の連絡体制も充実していることから、現代の幼稚園の質の高さを実感している。
- 保護者自身にも主体的に成長する姿勢が求められると感じており、園の取り組みを高く評価するとともに、令和9年からの放課後児童クラブ事業の実現を強く期待している。
- 保育園行事の充実により保護者の負担が増している中、毎年同様の議論が繰り返されているが、意見を交わす場そのものに意義があり、親同士が相手の立場を思いやり理解することが、子どもたちにも良い影響を与えていると感じている。
- 地域では子どもの数が少なく、久しぶりに会うと成長を感じる中で、初めて孫が生まれ、これからの子育てに不安と期待の両方を抱いている。
- 医師として長年働く中で、医療を取り巻く環境や求められる役割が大きく変化し、特に小児科では従来のサービス提供が難しくなっていると感じている。そのため、理事会や評議会よりも、実際の当事者や現場の声を直接聞く場の方が、より有意義な意見や発想が生まれるのではないかと考えている。
- 長期間にわたりA評価を維持していることは、園が地域に根付いている証であり、保護者が安心して子どもを預けられる点や「安心の中で自分らしく育つ」という理念を高く評価している。自身の生育環境と比べ、現在の子どもたちが恵まれた環境にあることを羨ましく感じている。
- 孫が学童に通う中で、当初は嫌がっていたものの次第に楽しむようになり、学童の実態を初めて知った。現在の施設は手狭に感じる一方、ホップさんの放課後教育の方向性を高く評価している。また、集団登校の廃止や送迎の常態化により、子ども同士や大人同士のつながりが希薄になっていると感じている。
- 学童クラブの迎え車の多さや定員超過の状況から需要の高さを実感しており、特に大風の学童では環境面の厳しさも目の当たりにしている。ホップさんの児童クラブ開設は利便性向上につながり、給食提供や食育への期待から保護者の負担軽減にもなる点で高く評価しており、今回の議題の中でも放課後児童クラブに最も関心を持っている。
- 全国各地の保育園事情を経験する中で地域差を実感し、親が主体的に園を選び子どもの教育に関心を持つ重要性を感じている。ホップさんは保護者からの信頼が厚く、先生方の自信ある取り組みを高く評価しており、今後も継続を望むとともに、新たな学童事業では高齢世代が地域貢献できる仕組みを期待している。
- これまで児童クラブとは縁がなかったが、孫の小学校入学をきっかけにその必要性を実感している。ホップさんの児童クラブ開設を好意的に受け止めており、犯罪抑止や社会全体の改善につながることを期待している。